

【ロームシアター京都 見学会 13:30~】



サウスホール (シンポジウム会場)



メインホール

写真: 小川重雄

シンポジウム会場としてサウスホール、見学会にてメインホールをご案内致します。今年1月のリニューアルオープン以後、大変に盛況な状況が続いておりますが、今回はロームシアター京都にも調整頂き、同時に双方のホールが見学出来る貴重な機会となりました。更に、当日は京都府会館再整備の設計者である、香山壽夫先生からの建物やホールの説明もごぞいます。専門家に限らず、市民の皆様や学生の方にも、是非、足を運んで頂ければと思います。

【シンポジウム開催主旨 テーマ「モダニズム建築の保存改修について考える」15:00~】

日本を代表する建築家である前川國男によって昭和35年に造られた京都会館は、京都・岡崎地域に建ち、京都の建築・都市の伝統を生かしつつ、20世紀近代建築の理念を実践した戦後のモダニズム建築の傑作である。この建築は、専門的に高い評価を与えられただけではなく、広く市民にも愛されて今日に至った。

一方で、築後50数年を経たこの建物は、施設全般の老朽化やホール機能の劣化など、利用者や来場者の要望に答えられない状況となり、京都市では平成14年の耐震調査から検討を重ね、平成23年6月に「京都会館再整備基本計画」を策定した。ここでは、既存の建物を出来る限り活かし、次世代へと引き継ぐことを基本とし、施設水準の向上のために必要な再整備を目的としていた。

再整備に対しては、建物の過半を占める第一ホールの解体や増築などの改変をすべきではないという意見と、公共ホー

ルとして抜本的な機能充実のためには全て建て替えるべきという、真つ向から対立する意見があった。再整備計画や基本設計では解体や増築部分も含めて、建物価値を継承し、岡崎の景観との調和と、抜本的な機能改修を実現させるという、モダニズム建築の新しい保存改修の方針を選択した。

今回の見学会が、今後のモダニズム建築における保存改修を取り巻く、これらの複合的な問題について深く考える機会となること。更に、建築家や建築歴史家、公共施設運営者など、様々な分野や立場から意見交換を行うことで、この問題を広く社会にて共有し、知見を高めるための機会になり得ると捉え、シンポジウムの企画に至った。

継続した建物利用を実現するため、求められる機能の改修と保存について、各パネリストから具体的な考え方や、様々な事例などを紹介頂き、その可能性について、積極的な議論の場としたい。

【シンポジウム司会進行 兼 パネリスト紹介】



門内輝行 (日本建築学会理事・近畿支部長、大阪芸術大学教授、京都大学名誉教授)

1950年岡山県生まれ。1973年京都大学工学部建築学科卒業、1975年東京大学大学院工学系研究科建築学専門修士課程修了、工学博士(東京大学)。1997年早稲田大学理工学部教授、2004年-2016年京都大学大学院工学研究科教授、2016年大阪芸術大学教授。専門は建築・都市記号論、設計方法論、景観デザイン論。1998年日本建築学会賞(論文)、2015年キッズデザイン賞・経済産業大臣賞など。学会活動、社会活動、著書多数。

【シンポジウム パネリスト紹介】



香山壽夫 (京都会館再整備基本設計者・監修者、東京大学名誉教授)

1937年東京生まれ。1960年東京大学建築学科卒、1965年ペンシルヴェニア大学美術学部大学院修了(M.Arch)、工学博士(東京大学)。1973年香山アトリエ(現香山壽夫建築研究所)設立、1982年ペンシルバニア大学客員教授、1986年-97年東京大学教授など。以降多数の大学教授を歴任。主な作品に「さいたま芸術劇場」(日本建築学会賞)、「聖学院大学礼拝堂・講堂」(日本芸術院賞)、「東京大学安田講堂改修」など。



千葉 学 (千葉学建築計画事務所、東京大学大学院教授)

1960年東京都生まれ。1985年東京大学建築学科卒、1987年同大学院修士課程修了後、日本設計。1993年ファクター エヌ アソシエイツ共同主宰。2001年千葉学建築計画事務所設立。現在、東京大学大学院教授。主な作品に「日本盲導犬総合センター」(日本建築学会賞)、「大多喜町役場」(ユネスコ文化遺産保全のためのアジア太平洋遺産賞功績賞)、「工学院大学」(村野藤吾賞)など。



西村幸夫 (日本イコモス国内委員会委員長、東京大学先端科学技術研究センター教授)

1952年福岡市生まれ。東京大学都市工学科大学院修了。工学博士(東京大学)。1996年より東京大学教授、2011年-2013年まで東京大学副学長、2013年-2016年まで先端科学技術研究センター所長。この間、アジア工科大学助教授(バンコク)、MIT客員研究員、コロンビア大学客員研究員、フランス国立社会科学高等研究院客員教授など歴任。専門は都市計画、都市保全計画、都市景観計画など。



橋本 功 (前川建築設計事務所 所長)

1945年神奈川県生まれ。1970年日本大学理工学部建築学科卒、2000年前川建築設計事務所所長・代表取締役。主な作品に「横浜市教育文化センター」「福岡市美術館」「国立音楽大学講堂」など。「東京文化会館」「東京都立美術館」「国立国会図書館」「神奈川青少年センター」などの前川國男によるモダニズム建築の保存・改修を数多く手がける。BELCA賞、JIA25年賞など受賞多数。



平竹耕三 (京都市文化芸術政策監、ロームシアター京都館長)

1959年京都市生まれ。1982年京都大学法学部卒業、2006年経済学博士(龍谷大学)。1982年京都市役所入庁、京都市文化芸術担当局長、文化市民局長などを経て現職。伝統文化、伝統産業、創造活動支援など京都の特性を創造的に活用した横断的な施策に取り組む。著書に「自治体文化政策 [まち創生の現場から]」「コモンズと永続する地域社会」など。
*五十音順・敬称略